

バンコク都のカナカマカーン・チュムチョン

——アンケート調査にもとづく実態分析——

○福島大学 牧 田 実
宇都宮大学 マリー ケオマノータム

1 目的

この報告の目的は、バンコク都におけるチュムチョン（地域）の概況と課題をふまえつつ、カナカマカーン・チュムチョン（地域委員会）の組織と活動の実態をアンケート調査によって数量的に把握することである。

2 方法

バンコク都に存在する計 2,068 チュムチョン（2016 年 3 月 21 日現在）のすべてを調査の対象とした。バンコク都社会開発局の協力を得て、都内全 50 区の区役所の地域社会開発課をとおして、カナカマカーン・チュムチョンの会長に調査票を配付・回収した。調査期間は、2016 年 3 月 21 日から 4 月 29 日。配付 2,068 票に対して、有効回答 1,701 票を得た（有効回収率 82.3%）。

3 結果

チュムチョンは、ゴミ、防火、防犯、生活雑排水、子どもと大人の麻薬問題、住居、貧困、道路の未整備など、ハード・ソフトの多面にわたる地域問題を抱えている。住民を組織化し、住民の参加と自助によってこれらの解決にあたるのが地域社会開発およびカナカマカーン・チュムチョン組織化の政策的意図である。「チュムチョンおよびカマカーン・チュムチョンに関するバンコク都規則」（2012 年）にもとづいて選挙で選出された男女ほぼ同数の委員が月 1 回のペースで会議を開き、行政に加え、多くは議員、NGO とも関係を保ち、他のカナカマカーン・チュムチョンとも連携しながら、親睦的な行事や問題解決的な地域活動に取り組んでいる、というのがカナカマカーン・チュムチョンの基本イメージであり、その組織と活動の実態がアンケート調査において明らかになったといえよう。ほぼすべてのチュムチョンにおいて、カナカマカーン・チュムチョンは地域を代表する組織であり、地域改善に貢献していると評価されている。その会長は、平均 58 歳、高卒または大卒の男性自営業者が多く、3 期 6 年ほど在任している。しかし、一方、多くのカナカマカーン・チュムチョンでは、後継者の確保が課題となっている。

チュムチョンでは、多くの場合、カナカマカーン・チュムチョンを母体として組織された老人会、青少年会、婦人会、貯金会などの組織化が進んでいる。カナカマカーン・チュムチョンとこれらの地域組織は、国母基金、チュムチョン自立計画、都市村落基金、地域福祉基金、To be No.1 サークルなど各種のプロジェクトに選択的に取り組んでいる。

4 結論

カナカマカーン・チュムチョンは、地域社会開発のための行政的必要性から組織化された「行政末端組織」であり、制度的に認知された「区画性」と「代表性」を有している。加えて、アンケート調査の結果より、経済、社会、物的、保健衛生、精神という各面にわたる包括的機能を担う「地域共同管理組織」であり、住民からもひろく「代表性」を付与された組織であることが明らかになった。

文献

マリー ケオマノータム・牧田実, 2017, 『バンコクのカナカマカーン・チュムチョンに関するアンケート調査報告書』平成 28 年度科学研究費補助金（基盤研究 C）研究成果報告書